

# ペDESTリアンウェイにおける安全・公共・案内に関する設備の分布特性

小林 愛（地球科学専攻）

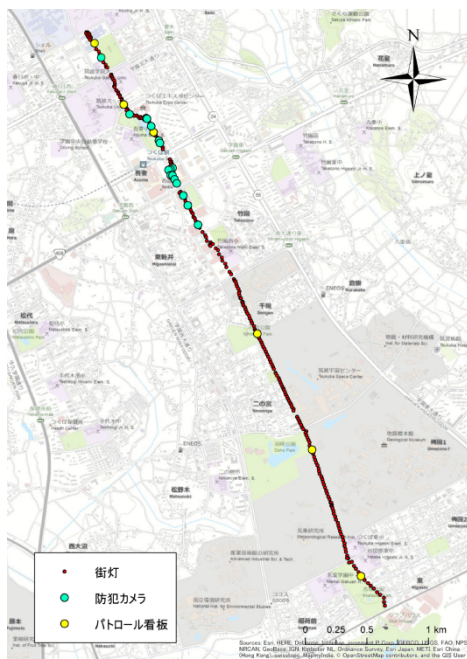
**1. 目的：**つくば市の中心部を縦断するように整備されているペDESTリアンウェイ（以下ペデ）は、市を代表する公共空間の1つである。市はそれらを活用し、魅力向上やにぎわいの創出を図る取組みを計画しており、ペデにおける設備分布の現状を把握することが重要であると考えた。

**2. 対象地域：**ペデのうち特に一般市民が利用すると考えられる、筑波メディカルセンター病院を北端、赤塚公園を南端とする範囲（筑波大学構内を除く範囲）を対象とする。

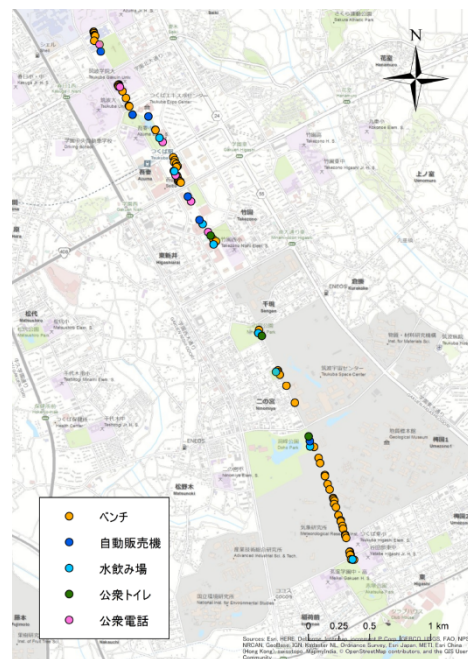
**3. 研究手法：**①安全に関する設備（街灯、防犯カメラ、パトロール看板）、②公共に関する設備（ベンチ、自動販売機、水飲み場、公衆トイレ、公衆電話）、③案内に関する設備（ペデ案内MAP・看板）に分類し、GPS端末を用いて各設備をウェイポイントとして記録した。その後、ArcMapを用いて取得したデータの地図化を行った。

**4. 結果・考察：**①の分布は第1図の通りである。対象範囲内の街灯の数は274本であり、平均約17m間隔で範囲内にまんべんなく分布していた。しかし、防犯カメラにおいてはTXつくば駅を中心とした半径700m以内に集中しており、デイズタウン以南には見られなかった。パトロール活動が行われていることを強調する看板（パトロール

看板）は、子どもが多く集まるであろう公園付近にて見られた。また、歩行者の安全を図るため、国際会議場付近から南大通までの範囲は歩行者・自転車を分離するための色分け・道分けが行われていた。次に、②の分布は第2図の通りであるが、ペデには複数の公園が面しており、ペデ付近の自動販売機や水飲み場、公衆トイレなどは公園の設備であることが多く、それぞれの公園において主要な設備をペデ沿いに設置していることがわかった。これにより、公園とペデという2つの公共空間が互いに連結されているといえる。③に関しては、ペデ上には全体の中での現在地を示すMAPと、ある地点への距離を示す看板の2種類の案内が設置されている。TXつくば駅周辺には密に、南部には約500m間隔に分布していた。以上より、メディカルセンター周辺はベンチが充実しており、春には桜並木、冬にはイルミネーションで彩られるなど、市民の憩いの場として機能している。TXつくば駅周辺は人通りが多いためか、防犯カメラが多く設置されており、安全性が高かった。ペデ南部は、公園の存在により公共の場としての機能は有しているが、交通の少なさ・高い並木による空間の暗さに対して防犯カメラの設置がなく、安全性は低くなっている。



第1図 安全に関する設備の分布図  
(調査結果より作成)



第2図 公共に関する設備の分布図  
(調査結果より作成)